

# 実践のまとめ（中学校 1 年 英語科）

授業公開日 令和 6 年 1 0 月 2 3 日 第 5 校時

指導者 阿賀野市立笹神中学校

教諭 赤澤 泉

## 1 研究テーマ

### Critical Thinkingをもった生徒の育成

～生徒同士のフィードバックを通してCritical Thinkingの視点をもつ～

## 2 研究テーマについて

### (1) 研究テーマ設定の意図

新学習指導要領（平成 2 9 年度告示）には、「外国語による見方・考え方とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関りに着目して捉え、コミュニケーションを行う場面や目的や場面、状況に応じて、情報を整理しながら考えを形成し、再構築すること」と示されている。つまり多様な視点をもって自分の考えをもち伝えることや結論に至っても考えつづけることが求められる。物事や情報、自分の意見を無批判に受け入れるのではなく、多様な角度から検討し論理的・客観的に理解することが必要である。また、生徒が自分の考えを多角的に見るには他者との比較によって行えると考える。他の生徒の表現方法やフィードバックから、多角的に考え続けるために本テーマを設定した。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① 生徒の意欲的をかきたてる目的・場面・状況の設定

生徒が自分の考えを表現し伝えるには、明確で魅力のある目的・場面・状況の設定が必要である。生徒が、状況や場面から思考・判断し、伝える内容を深く考え、「伝えたい」と思うことでよりよい表現方法を探し考え続けられるようにする。またゴールに関連した活動を単元の帯活動で行うことで、目的を常に意識させ、自分の表現を言語面・内容面を含め再構築させ続けていく。

#### ② 相手の表現やフィードバックから表現方法を豊かにする振り返りの設定

相手に自分の考えを伝え、相手からのフィードバックをもらい、自己の課題を掘み改善策を考える時間を意図的に設定する。クラスメイトからのフィードバックを受けて内用面と言語面を改善し、再度自分の考えを伝え直し、この活動を繰り返していく。その際に、フィードバックや、相手の真似したい表現などを書き留める振り返りの時間を設け、自分の考えや表現方法を問い続けることができるようにする。

### (3) 研究テーマにかかわる評価

抽出生徒の変容の見取り

英語が得意な生徒、中間層の生徒、苦手な生徒から 1 名ずつ抽出し、言語面・内容面で相手を意識した内容に改善されているかを見取る。

## 3 単元と指導計画

### (1) 単元名

Lesson5 USE WRITE 学校生活や行事を紹介するメールを書こう（New Crown 1 三省堂）

## (2) 単元の目標

生徒が思う理想の学校生活がどのようなものかを知りたいALTのために、ALTが魅力を感じ納得できる説明を、根拠を含め書くことができる。（書くこと）

## (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在進行形の特徴やきまりを理解している。</li> <li>・学校行事や部活動について現在形や現在進行形や既習事項など簡単な語句を用いて書く技能を身に付けている。</li> </ul>	日本・フィリピン・アメリカの中で理想の学校生活を知りたいALTのために、各国の違いや日本の学校生活を説明し、選択した理由にALTが納得できるよう事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	日本・フィリピン・アメリカの中で理想の学校生活を知りたいALTのために、各国の違いや日本の学校生活を説明し、ALTが選択理由に納得できるよう事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。

## (4) 単元と生徒

本単元Lesson 5の最終ゴールは、アメリカ・フィリピン・日本の中から理想の学校生活を選び、ALTにメールで説明するという「書くこと」を目標としている。この単元ではアメリカの学校生活が題材となっている。教科書からアメリカの学校生活を、フィリピン出身であるALTからフィリピンの学校生活を知り、日本と比較する。その中で、どの学校生活が一番自分の理想なのかを考え、ALTに書いて伝えることを目標とした。また、この単元の言語材料は現在進行形である。写真を使い、学校生活を説明するときにより詳しく表現できることを生徒に気づかせ、表現力の幅を広げることを図りたい。

1年生は、簡単な身の回りの単語や自分について表現する単語などを聞き取ることができる。また、声を出して自分のことを表現することに抵抗感がある生徒も少ない。しかし相手を意識して自分のことを表現したり、単語ではなく文で伝えたりすることが難しい。本実践で、相手が求めているものを伝えるためにはどのように表現すればいいのかを、生徒同士のやり取りから学び、よりよい結論を求め続けることができる生徒を育てたい。

## (5) 単元の構想（全10時間、本時9／10時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価基準と方法
1	・単元のゴールの確認	・単元の目標を共有する。	記録に残す評価は行わない。生徒の活動状況を見届け、中間指導する。フィードバックと振り返りの時間をもうけ、最終的なゴールにつなげる。
2 (2)	・Get Part1 現在進行形の肯定文 ■学校の行事の写真を 見ながらその状況を 説明する。	・教科書本文の理解を通して 現在進行形を理解する。 ・教師が提示したテーマにつ いてペアで伝え合い、正確 に書く。	
2 (2)	・Get Part2 現在進行形の疑問文・ 否定文 ■学校の行事の写真を	・教科書本文の理解を通して 現在進行形の疑問文・否定 文を理解する。 ・話した内容について、正確	

	見てその状況を相手に質問する	な文を書く。	
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>USE READ 説明文</li> <li>■アメリカの学生の放課後活動を読んで、日本との違いを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカの中学生の放課後活動について、大まかな内容を読み取る。</li> <li>日本との違いをまとめ、筆者の質問に答えることができる。</li> </ul>	
4 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①原稿書き1回目</li> <li>②原稿の内容修正</li> <li>③原稿書き2回目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想の学校生活について、学校生活の説明やALTを納得させることができる理由を書くことができる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>正確でまとまりのある文章を書いている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的・場面・状況に合った学校生活の紹介文を書いている。</li> </ul> <p>【生徒の原稿】</p>

## 4 本時の指導

### (1) 本時のねらい

ALTのビデオメッセージや教科書の内容などを聞いたり、読んだりして、自分の考えをまとめ、海外と日本の学校生活の違いやどの国の学校生活が一番好きかを知りたいALTのために、自分の意見を再考することができる。

### (2) 展開の構想

- ① 単元の初めに、ALTからビデオメッセージを聞き、ALTがどんなことを求めているかをゴールの課題を意識して単元を学習できるようにする。また、ルーブリックは提示するが生徒が自分事にとらえ伝えたい、と思えるように思考・判断・表現の1部のルーブリックを生徒が作る。ゴールに向けて、写真などの説明を帯活動に入れ、実際に書く活動の際にどの生徒も参加できるようにする。
- ② 帯活動の際に、毎時振り返りや相手の真似したい表現を書き留める時間を確保する。その時書き留めた内容を使って、自分の原稿を再考する際の表現方法を広げられるようにする。また、教科書にのっているアメリカの中学校生活やALTのビデオメッセージからフィリピンの学校生活を知り、日本と比較する時間を設け、アイデアをまとめやすくする。ALTのビデオメッセージをロイロノートに送り、必要な時に何度も確認できるようにすることで、ALTへアピールする内容を書けるようにする。

### (3) 展開

時間	●学習活動	・授業者の働き掛け 予想される生徒の反応	評価
導入 (5分)	●描写練習  ●目標確認	・絵や写真を相手にどのように伝えればいいのかをペアや全体で確認する。 ・場面設定を学級全体で確実に理解し、共有させる。	
自分の理想の学校をベル先生にアピールするにはどうすればいいか。			
展開 1 (15分)	●ループリックの確認  ●B評価の英文を見て、どうすればA評価になるか考える	・全体で考えを共有しまとめる。	
展開 2 (25分)	●全体で共有した考え方とループリックを基に自分の内容を確認し、修正する。  ●修正した紹介をペアに伝える	・教科書やALTからのビデオメッセージを参考にすると、追加・修正する部分分かりやすくなることを伝える。 ・今まで書き留めたフィードバックや表現集を振り返るよう伝える。  ・中間指導をし、よい表現を全体で共有する	・中間指導で次につながる表現を共有する。  ・ループリックでポイントを確認して相手にアドバイスをあげるよう指導する。
まとめ (5分)	●相手からのアドバイスをもとに次回どこを修正するか、メモをする。	・アドバイスを読み、次回改善する箇所を確認する。	

### (4) 評価

自分の書いた内容を再考し、ALTが納得するような理想の学校生活を書くことができる。

【思判表 書くこと】

Rubric(ルーブリック):Writing Production(書くこと)

規準／基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	誤りのない正しい英文で書くことができる。	目標(Goal)に対して、自分の考えを詳しく伝えながら、 ① 理想の学校スタイルを詳しく説明している。 ② なぜそれが理想の学校なのか理由を伝えている。 ③ ベル先生にアピールする工夫をしている。 上の3つを満たしながら書いている。	自分の考えを思考・判断・表現の3つを全て満たし詳しく書こうとしている。
B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障がない程度の英文で書くことができる。	目標(Goal)に対して、 ① 理想の学校スタイルを説明している ② なぜそれが理想の学校なのか理由を伝えている。 ③ ベル先生にアピールする工夫をしている。 上の2つを満たししながら書いている。	思考・判断・表現の2つを満たしながら書こうとしている。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。

A 評価

I like American school life.

In Japan, we eat same lunch. Look at the picture.

American students are bringing lunch boxes. Some students are buying lunch at the cafeteria.

They can eat their favorite food.

In America, you can eat adobo at school.

B評価

I like American school life.

Look at the picture.

American students are bringing lunch boxes.

They can eat their favorite food.

## 5 成果と課題

### (1)成果1 授業の実際

- ① 単元ゴールの確認 (第1次)

目的・場面・状況を、“フィリピン出身のALTが、日本の中学生があまり学校を好きではない状況を残念に思っている。” “そこで日本の中学生が考える理想の学校生活を知りたい。” “アメリカ・フィリピン・日本の学校生活を参考に理想の学校生活を伝える”、と設定した。理想の学校生活という、生徒にとって関心が高くアイデアが湧きやすいものにしたこともあり、興味をもっている様子が見られた。また、生徒がよりよい表現を追い求めることができるように、思考・判断・表現のループリックを生徒自身で考えるようにさせた。思考・判断・表現の中にある、“ベル先生にアピールする”とはどのようなことが書いてあればいいのかがよく分からない、という意見が生徒から出た。そこで、アピールするとはどういうことかを、班で話し合わせた。班の意見を全体で共有し、その中から「画像（イラスト）を提示すると伝わりやすい」「説明だけでなく自分の気持ちを書くといい」「細かい説明を加える」を新しいループリックとして加えた。また、授業を進めていく中で、相手を納得させるためには「比較」「相手意識」が大切であることも生徒は気付くことができた。生徒にとって魅力のある目的・場面・状況を設定したからこそ、生徒自身がループリックを見直し、より、自分事としてゴールを捉えることができた。

自分の理想の学校をベル先生にアピールするには？

(くわしく)

<ul style="list-style-type: none"> <li>画像を出す</li> <li>具体例</li> <li>気持ちを伝える</li> <li>ジェスチャー、問いかける</li> </ul>	<p>自分の気持ち → delicious They can eat delicious food every day. 3ヶ国との比較 In America they... 相手意識 BUT IN JAPAN...</p>
---	--

② ゴールに向けた帯活動

帯活動ではゴールに向け、写真の説明をする活動を行った。生徒から「画像（イラスト）を提示すると伝わりやすい」と出たので、生徒はゴールに向かうための活動だと意識して行うことができた。学校生活に関する写真の内容を書く活動を行った。書く抵抗感を減らすために、教師が写真を提示した写真の説明をペアに話してから書く、という流れにした。ただ描写するのではなく、相手に詳しく伝えるためにはどうすればいいかをペアでアドバイスをし合い、修正を加えた。また、ペアや全体で共有したいいい表現をまとめて書き留める時間も設け表現の幅を広げ、実際書く時に見返せるようにした。

I like cntry and rice!! The student are eating Cn	
try and rice The student... donot like cnry and rice	
why?	
アドバイス	↓ delicious & hot をつけたほうがいい, so をつける

感想・相手の真似したい表現	They are happy. We are happy. We can enjoy Sports Day.
---------------	--

③ アイディアを整理、比較する蓄積

単元のゴールはアメリカ・フィリピン・日本を比較し、どの学校生活が一番理想かを伝えることである。そのために、教科書からアメリカの学校生活、ALTのビデオメッセージか

らフィリピンの学校生活を生徒は学んだ。3カ国を比較し自分の考えをまとめやすくするために、授業・給食・放課後（部活動等）のカテゴリーに分けたまとめシートを使用した。各国の特徴とどの国のスタイルが一番理想かを書けるようにした。アイデアをまとめやすくなったため、生徒から3カ国だけでなくミックスしたスタイルを作りたいと、主体的に課題解決を図ろうとする姿が見られた。

④ ルーブリックと表現の振り返りを使い、自分の考えを再構築する

B評価のルーブリックを提示しどのような内容項目にしたらA評価になるかを、考えさせた。ALTにアピールする方法である「気持ち」「比較」「相手意識」を内容に入れるには、その学校でできること、読む相手がフィリピン出身のALTであることを意識して構成を考えることができた。ルーブリックに新たに追加した内容を全体で確認した後、自分が書いた内容を再構築できた。

(2) 成果2 研究テーマにかかわって

抽出生徒の変容の見取り

1回目のライティングと2回目のライティング(ルーブリックを再度見直し修正したもの)の変容を見取った。「」や( )のある部分が2回目でも再構築して書いたものである。

① 英語表現が得意な生徒

I like Japanese school life.  
Look at the picture.  
They are eating school lunch with their classmates.  
In America they are bring lunch from home and buy lunch at the cafeteria, but in Japan they are eating school lunch.  
I like school lunch.  
Do you like school lunch?  
I'm favorite school lunch is carry and rice very much!

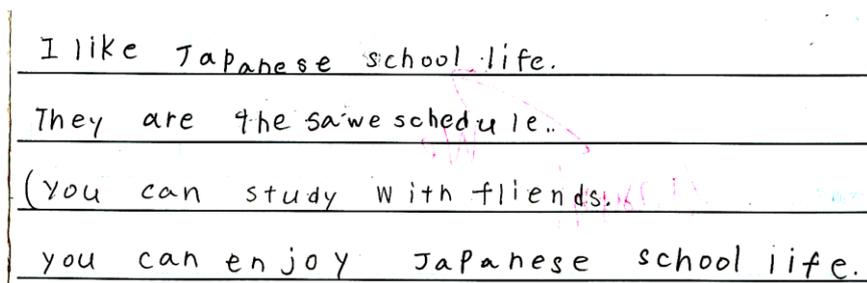
追加した英文では、ルーブリックの追加項目である、比較した内容で自分のアピールを伝えることができた。日本とアメリカを比較した違いや相手を意識した質問など、自分の気持ちを伝えて書くことができた。

② 中間層の生徒

~~I like~~ Japanese school life is good.  
Look at the picture.  
They are studying.  
( In American they have different schedule. )  
( But in Japanese, we have the same things. )  
( You can Enjoy Japanese school life. )  
( I like Japanese school life. )

追加した英文では、比較した内容や、相手が自分のおすすめする学校で何ができるかなど、相手意識をもって表現することができた。

### ③英語表現が苦手な生徒



追加した英文では、相手が自分のおすすめする学校で何ができるかなど相手を意識した表現が見られた。

また、後日行った類似のパフォーマンステストである「ALTに日本の学校生活を伝える」では、ループリックに比較などの表記がなくても、フィリピンとの比較を書いたり、相手が日本の学校でできることや自分の気持ちなどを表現したりする生徒が増えていた。

生徒たちは自分が書いたものを、よりよいものにするために思考して加筆や修正をすることができた。生徒にとって身近で想像が膨らみやすい目的・場面・状況を設定したこと、また自分達でループリックに新規項目を付け加えることで、より明確な目的・場面・状況になったことが一因と考える。相手が何を求めているか明確になったからこそ、一度書いたものから内容を再考し表現を増やすことができた。またペアからアドバイスをもらったり、相手の真似したい表現を書き留めたりすることで、表現方法を豊かにする足掛かりになった。自分の使える表現方法だけでなく、他の表現方法を振り返りシートで確認できることで、ゴールに向けて伝えたい内容をどう表現すればいいかを、諦めずに思考し続けることができたと考える。

### (3) 今後の課題

#### ①言語面の正確性

一度書いた内容を、ループリックなどを見て内容面を豊かにする生徒が増えた一方で、正確性には課題が多く残った。教師が文章を訂正するのではなく、生徒同士で間違いを確認し訂正できるようにしていきたい。そのためには、正確性を確認できるチェック表などを生徒に提示し活用できるようにする。表現を伸ばす活動と正確性を高める活動を言語活動の中に組み込ませていきたい。

#### ②個に応じた指導

ほとんどの生徒が自分の表現集などを参考に書けていたが、教師の手助けなしには書けない生徒もいた。全体で共有するゴールと、個に応じたゴールを設定していかなければならぬと感じた。全体のゴールを共有しつつ、そこに向かうまでの手立てを個に応じて作っていき、全員が英語で自分を表現でき、その楽しさ充実感を味わえる授業を行っていきたい。

#### <参考・引用文献>

文部科学省. 『中学校学習指導要領(平成29年度告知)解説 外国語編』. 開隆堂出版. 2017

文部科学省. 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』. 東洋館出版. 2020